

16 安芸灘地域の振興

地域政策局地域力創造課・土木建築局道路企画課

提案の要旨

安芸灘大橋の通行料金の見直しを含めた地域振興策の推進

現状及び課題

安芸灘地域は、下蒲刈島、上蒲刈島、豊島及び大崎下島の主要4島からなり、平成12年1月に開通した安芸灘大橋により本土と連絡し、さらには平成20年11月の豊島大橋の開通により離島が解消されています。また、当地域は瀬戸内海の自然に恵まれた風光明媚な地域であるとともに、世界記憶遺産「朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図」を収蔵する松濤園や蘭島閣美術館、御手洗町並み保存地区、県民の浜の海水浴場やコテージ、古代土器製塩体験施設など数多くの文化・観光施設を有しています。

当地域の人口は、昭和22年（国勢調査）の約3万人をピークに減少し続けており、平成27年国勢調査では約6,500人にまで減少しています。また、高齢化率は59.9%であり、人口減少・高齢化が当地域の大きな課題となっています。

こうしたことから、呉市では人口減少対策として空き家の活用や農業・漁業者の就業支援、生活バスの運行支援など、定住・移住の取組を進めています。また、当該地域の活性化に向けて、「呉とびしまマラソン」、「安芸灘とびしま海道オレンジライド」（いずれも平成22年から実施）、「瀬戸内安芸灘とびしま海道ウォーキング大会」（平成24年から実施）など、地域と連携して多彩なイベントを開催するとともに、島内で買い物や食事をされた方を対象として片道分の回数通行券を助成するなど、交流人口拡大にも取り組んでいます。

県におかれても、住民の日常生活における負担軽減を目的とした安芸灘大橋の通行料金割引の社会実験（平成24年1月～同26年3月）を実施され、現在も社会実験と同水準の通行料金としていただいているところです。

しかしながら、安芸灘大橋は住民にとって通勤・通学、通院、買い物など日常生活を送る上で、本土への利用が可能な唯一の生活道路であり、現在の通行料金であっても住民には非常に大きな負担を強いている状況です。また、交流人口の拡大に当たっても通行料金は大きなハードルとなっていることから、当地域の更なる地域振興を推進するためには安芸灘大橋の通行料金の見直しが不可欠な状況となっています。

取組状況等

- | | |
|----------|---|
| H17. 7 | 安芸灘大橋利用促進事業開始（市事業はH22.3で終了。H22.4からは（財）蘭島文化振興財団等により類似の事業を実施） |
| H20. 1 1 | 安芸灘諸島連絡架橋ルート的愛称募集（「安芸灘とびしま海道」に決定）や開通記念イベントの実施などによる利用促進 |
| H22. 3 | 第1回呉とびしまマラソン実施（継続中。第9回まで開催） |
| H22. 1 2 | 第1回安芸灘とびしま海道オレンジライド2010実施（第8回まで継続中） |
| H24. 5 | 第1回瀬戸内安芸灘とびしま海道ウォーキング大会実施（第6回まで継続中） |
| H24. 1 | 通行料金割引社会実験開始（県事業：H24.1.16～H26.3.31） |
| H24. 4 | 回数通行券助成事業（市事業：H24.4.28～H26.3.31の土・日・祝日） |
| H26. 4 | 通行料金改定（H26.4.1～）
市の回数通行券助成事業を平日にも拡大（H26.4.1～） |
| H29. 1 0 | 「朝鮮人来朝覚備前御馳走船行烈図」がユネスコ記憶遺産に登録 |
| H30. 2 | 「北前船」日本遺産追加認定申請 |

提案の内容

○ 安芸灘大橋の通行料金の見直しを含めた地域振興策の推進

安芸灘地域の住民の負担軽減を図るとともに、交流人口の拡大による地域の活性化を図るため、安芸灘大橋の通行料金の見直しを含めた地域振興策を推進すること。

